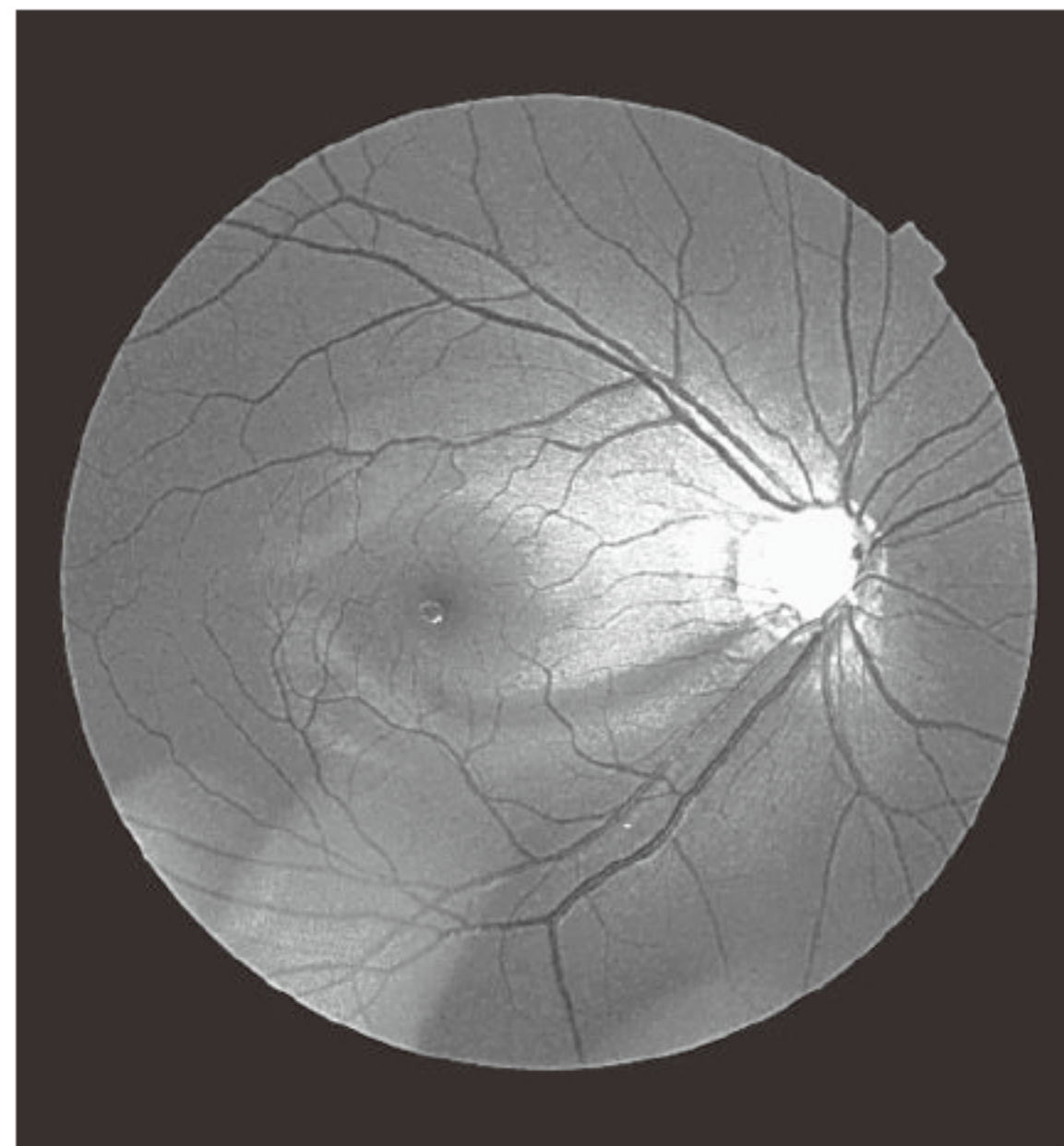




眼底写真を撮ると、正常な目①に比べ、緑内障の目②は網膜の異常が暗い影(右下)となって写る

アラフィフからの AROUND50 からだ講座

緑内障

これまで自信があった視力も気がつけば老眼。初めてかけためがねは不慣れのため、忘れたり、なくなったりと格闘が続く。しかし、それ以上に心配なのは緑内障だ。50代で見つかることが多いと聞いて、緑内障に詳しい大阪府茨木市のイワサキ眼科医院白川分院の久保田泰隆院長(42)のもとを訪れた。

40歳過ぎたら年1回検査を

——緑内障とはどんな病気なのでしょう。

久保田 目の網膜神経節細胞が脱落し、視野の欠損が起きる病気です。

——50代に多いとか。

久保田 必ずしも50代で発症するわけではありません。緑内障は視力低下という自覚症状に乏しく、本人が気づくケースはほとんどありません。片方の目で視野の一部が欠損しても、両目で生活していると多くの場合

人はその中の1割程度でした。

——「緑内障」と聞くと、イコール失明の宣告と受け取ってしまえます。

久保田 確かに後天的な失明の原因の1位は緑内障です。しかし、実際に失明にいたる人はごくわずか。病気の性質上、良くなることはありませんが、進行を遅らせることで多くの場合失明は避けられます。

——どのような治療をするのでしょうか。

久保田 投薬点眼薬の処方やレーザー治療、時には手術で眼圧を下げる治療を行います。ただ、白内障手術のように視力が良くなるわけではありません。進行を遅らせる治療なので、何より大切なのは早期発見、早期治療です。

——早期発見のためにはどの

ような検査を？

久保田 視力検査、眼圧検査、眼底写真撮影、視野検査の四つです。また、最近では近赤外線を使った眼底三次元画像解析(OCCT)検査が可能な眼科も増えており、より早期の診断が可能になっています。いずれも健康保険が適用されています。家族に緑内障になった人がいる方や、強度の近視の人は緑内障になりやすいと言われています。そうでなくても、40代、50代の人は年1回程度検査を受けられることをお勧めします。



くぼた・やすたか
奈良県立医大卒。
大阪大眼科学教室入
局、松山赤十字病院、
箕面市立病院などを
経て、2005年
からイワサキ眼科
医院白川分院院長